

認知症対応型通所介護事業所 Second Place ハレノヒ
第5回 運営推進会議（令和5年5月）

司会進行 ハレノヒ生活相談員
友田 美奈

議事

- 1 構成員紹介
- 2 利用状況報告
- 3 活動報告
- 4 ヒヤリハット
- 5 アクシデント
- 6 研修報告
- 7 ハレノヒにおける新型コロナウイルス感染者発生状況について
- 8 その他
- 9 次回開催予定日
- 10 構成員より感想、助言
- 11 会議終了

1 運営推進会議構成員紹介

| | |
|--|-------|
| 上岩野自治会長 | 様 |
| 民生委員 | 様 |
| 地域包括支援センター管理者 | 様 |
| 店舗オーナー | 様 |
| 利用者家族代表 | 様 |
| (株)EASE 代表取締役 | 井上 茜 |
| Second Place ハレノヒ生活相談員 | 友田 美奈 |
| 指定居宅介護支援事業所ハレノヒ管理者 Second Place ハレノヒ管理者 | 久川 洋介 |

2 利用状況

| 性別 | 要支援 1 | 要支援 2 | 要介護 1 | 要介護 2 | 要介護 3 | 要介護 4 | 要介護 5 |
|----|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 男性 | 0 | 1 | 1 | 3 | 2 | 1 | 1 |
| 女性 | 0 | 0 | 7 | 2 | 3 | 2 | 1 |
| 計 | 0 | 1 | 8 | 5 | 5 | 3 | 2 |

曜日別利用状況

| | 月曜 | 火曜 | 水曜 | 木曜 | 金曜 | 土曜 | 日曜 |
|----|----|----|----|----|----|----|----|
| 男性 | 4 | 3 | 5 | 3 | 4 | 2 | 2 |
| 女性 | 8 | 9 | 7 | 9 | 7 | 7 | 4 |
| 計 | 12 | 12 | 12 | 12 | 11 | 11 | 6 |

- ・利用者の傾向として男性 9 名女性 15 名と現在は女性の利用者が多い。年齢は 77～100 歳までの方が利用されている。
- ・介護度は要介護 1の方が中心だが、利用期間が長くなり利用開始時に比べ介護度が上がっている方もおられる。
- ・定期利用追加希望者 1 名、利用待機者 0 名。

3 活動報告

別紙 ハレノヒ広報誌「A0IRO」あおいろ 写真ページ参照

- ・第 10 号 令和 5 年 3 月発行

集団/個別脳活性トレーニング、門松作り、初詣、菊池菊まつり見学、山鹿一ノ谷見学、クリスマス飾り製作、カゴ作り、製作活動、苗の購入、畑作り、ピクニック、人文字収穫、熊本城・富士フィルム花見、積木作り、訪問美容、誕生日会、買い物同行、田原坂見学、調理トレーニング、ゲーム、散歩（歩行訓練）、掃除・洗濯等生活動作リハビリ、体操 等

4 ヒヤリハット R4.11.3～R5.5.11（抜粋して記入）

| ヒヤリハット | 対応 |
|--|---|
| 車椅子の方を送迎車へ乗車介助中、立ち上がられた後に車椅子を移動させた際、ブレーキがかかっておらず車道側へ転がってしまう。 | 利用者が使用していない車椅子でも必ずブレーキをかけ周囲の安全を確保するよう周知する |
| 歩行付添いが必要な方が一人で移動される | 付添いが必要な利用者リストを作成し再周知した |
| レクレーション中、他の方に厳しい口調をされる方がおられ受取手が立腹。 | 両者の間に職員が入りコミュニケーションの支援を行う |
| 給油後、蓋を閉め忘れ翌日の送迎担当者が気付く | 一つ一つの動作を確認しながら行う |

| | |
|---|--|
| 自宅玄関前の坂道で利用者さんが自分の足に躓きフラつき。職員が支えていたため転倒はなし | 移動時の付添い継続し転倒を予防する |
| 帰りの送迎が始まり、送迎車へ案内するために声掛けしたさい椅子からの立ち上がり時に大きくフラつき。職員が支えていたため転倒はなし | 帰宅前は特に気持ちが焦られるため見守り、移動時の付き添いを強化している |
| 日中、利用者さんが一人で散歩に出ようとされる | 外に出るのは問題ないため安全に散歩していただくよう付添い行う |
| 軽度認知症の方のご主人が入所したことについて、デイで他者とのコミュニケーション中に興奮気味に話をされ落ち着かれない様子あり | 食後だったためさりげなく口腔ケアに誘い、その後席には戻らず職員と暫くソファで過ごしていただいた |
| 水分摂取時に咽せあり | タッピング無しで改善 |
| 自席から立ち上がり方向転換の際に大きくフラつき | フラつきがある方と周知できていたため職員が付添い中にて転倒なし |
| 車椅子常時使用中、自力で立位可能の方が自分で椅子に座られていた | 発生の時間帯に職員配置が正しかったのか検討見守り不足のないよう再度周知した |
| 外出から帰って、車からフロアへ利用者様を誘導する際に、車内に待機されていた方が一人で降りようとされる | アクシデント発生の可能性が高い場面では見守りが途切れないよう、視線を外す・その場を離れる時は他の職員に声掛けする |
| 歩行時付添いが必要な方が一人で移動をされていた | すぐに気づき付添いを行う 付添いが必要な方をリストにし改めて周知する |
| 帰りの送迎前に玄関前のベンチに座られた方が端に座られたため「もう少しこっちへ」と体を引くと「何をする！」と強い口調で立腹。改めて説明すると「そうかそうかごめん！」と言われる。 | 動きが早く職員の対応が間に合わず言葉足らずであった。転倒リスクを考慮する必要があるが説明不足とならないよう注意する。 |
| やや興奮状態にある方が自席にてテーブルを押す行為あり | 落ち着かれないときは一旦ソファに移動していただき対応を行う |
| 換気のため窓を開けているが歩行付添いが必要な方が閉めに行こうとされる | 付添いをしたため転倒はなし |
| 帰宅前、車が気になり落ち着かず職員に何度も話しかけられる方をみて他の利用者さんが立腹される | 落ち着かれない方がおられる際は先に乗車していただく |
| 送迎中、一旦停止無視した車が飛び出してきたため急ブレーキをかける。利用者、職員に特変なし。 | 発生した場所を他の職員と情報共有 自身が注意していても相手の動きが読めない場合があるため最大限注意をはらい運転する |
| 貸し出し備品の記録漏れあり | 記録用のノートの保管場所を変更 |
| 換気のため窓を開けているが離脱発生の可能性が高い | 利用者の動きに制限はかけないため出入り口にセンサーを設置 |
| 入浴の順番が遅いと立腹 | 可能であれば早い時間に入浴していただく 遅くなるときはおおよその時間を伝え待つ頂く |
| 来所後、洗面所に誘導する際にフラつき | 付添いを行っていたため転倒なし |

| | |
|---|--|
| 帰宅前、車椅子から立ち上がろうとされる | 声掛け、説明をすると納得され座って待たれる 送迎車への誘導だけに職員が集中しないようにする |
| 刻み食の切り方が足りず少し大きな形態で配膳 食べる前に他の職員が気付き再度刻んで提供 | 刻み食を盛り付けする際と配膳のタイミングの 2 回で2重チェックを行う |
| 昼食後薬を持参されておらずハレノヒに到着してから気 付く | お迎えに伺った際に連絡帳の中を確認する |
| 爪が割れていたようで、レクレーションで使ったはさみを 使い爪を切ろうとされる | 刃物などの物品は使用する時だけ取り出し、見守り が完全で無いときは片付けておく |
| 絵の具用の筆を自分で取りに行き耳かきをされていた | 看護師が確認し怪我はない様子。痒みを訴えられた ため再度綿棒で耳かきを行う |

・上記以外に 196 のヒヤリハット記録あり

5 アクシデント

| アクシデント | 改善策 |
|--|--|
| 入浴終了後、着衣介助をしている際、右上肢にカ ギ状の皮膚剥離あり。痛みを訴える声を出される 事も無く受傷のタイミングが不明。 | 移乗動作に介助が必要な方であり、シャワーチェアーの肘掛 けに擦られた可能性が高い。移乗の際は腕や足の位置を正確 に確認し移乗を行う。 |
| 車椅子移動介助中、他の職員に声をかけられ一瞬 目を離した際に車椅子の利用者さんの額をカウ ンターにぶつけてしまう。 | 介助している職員の再注意も必要だが、介助している職員へ の声掛けのタイミングも考慮するよう周知する。 |
| 入浴介助後、衣類やタオルを整理しバックに戻す 際、施設用品のマットを一緒にいれてしまう。同 時に、予備のリハビリパンツが入っていた袋も洗 濯物と一緒に袋に入れてしまう。家族より連絡あ り発生に気付く。 | 施設用品のタオル、マットを青と黒に統一し変更。一目で施 設用品と分るようにした。また、予備リハビリパンツを出す 際は袋ごと出さず一枚取り出すなどの対応を行う。 |
| 水分にとろみが必要な方が、同じ席の方のとろみ 無しの水分を一口飲まれる。 | 水分を提供する場合ははっきりと誰の分なのか分る位置に 置く。また、とろみが必要な方から準備をする。 |
| 車椅子移動介助中、利用者が左に傾き、カウン ターに額をぶつけてしまう。 | カウンターは必要に出し、それ以外は収納しておく。 |
| 送迎終了後、駐車場へバックで駐車の際、後方の 柱へ衝突してしまう。(バックガイドモニター付) | 停車するまでしっかりと周囲確認を徹底する。 |
| 入浴時、力を入れて職員の腕に捕まり介助を受け る方が急に脱力され転倒される。(日頃より職員 2 人で入浴介助を実施) | 1 人の職員は座っておられる前方に立ち腕を掴んでもらって いた。急な脱力で対応が間に合わず支えきれず転倒。今後は 「脱力されるかもしれない」と予測しながら対応する。 |
| 送迎時、朝薬を服用されたか家族に確認した際に 「飲んでいない」との事だったため到着後に預か った薬を服用していただく。その後、連絡帳のコ メントに他の家族から「朝の薬は飲んでいます」 と記入あり 2 重に服用された事に気付く | 服用前に必ず連絡帳の確認をする。確認をしても確実では無 いときは必ず連絡先 1 番目の家族へ連絡し再度確認してから 服薬介助を行う。 |

6 施設内研修

令和4年 11月 避難訓練
 12月 褥瘡対策
 令和5年 1月 認知症ケア
 2月 接遇
 3月 個人情報保護
 4月 身体拘束・虐待防止
 5月 避難訓練

7 ハレノヒにおける新型コロナウイルス感染者発生状況について

| | 陽性 確定日 | 区分 | 最終出勤・ 利用日 | 濃厚 接触者 | 感染経路 | 療養方法 | 療養後の状況 |
|---|-----------|-----|--------------|-----------|------|-------|------------|
| ① | R4.5.25 | 職員 | 5/21 | 無 | 家族 | 自宅療養 | 6/7～勤務再開 |
| ② | R4.7.21 | 利用者 | 7/17 | 無 | 家族 | 入院 | 利用再開できず中止 |
| ③ | R4.8.3 | 利用者 | 7/29 | 無 | 家族 | 入院 | 8/26～利用再開 |
| ④ | R4.11.13 | 職員 | 11/12 | 無 | 家族 | ホテル療養 | 11/21～勤務再開 |

↑前回の運営推進会議にて報告済み

| | 陽性 確定日 | 区分 | 最終出勤・ 利用日 | 濃厚 接触者 | 感染経路 | 療養方法 | 療養後の状況 |
|---|-----------|-----|--------------|-----------|------|------|------------|
| ⑤ | R4.12.9 | 利用者 | 12/8 | 有 | 家族 | 自宅療養 | 12/16～利用再開 |
| ⑥ | R4.12.9 | 利用者 | 12/8 | 有 | 家族 | 自宅療養 | 12/20～利用再開 |
| ⑦ | R4.12.20 | 職員 | 12/17 | 無 | 家族 | 自宅療養 | 12/28～勤務再開 |
| ⑧ | R4.12.27 | 職員 | 12/20 | 無 | 家族 | 自宅療養 | 1/3～勤務再開 |
| ⑨ | R4.12.30 | 利用者 | 12/29 | 有 | 家族 | 自宅療養 | 1/9～利用再開 |
| ⑩ | R5.1.3 | 利用者 | 12/22 | 無 | 家族 | 自宅療養 | 1/12～利用再開 |

※⑤⑥の感染ルートは別。濃厚接触者はいずれも入浴を担当した職員。

8 その他

・訪問理美容開始

委託業者：hair garden ハグム（アンビー熊本）

・令和5年4月1日

Second Place ハレノヒ管理者 久川洋介 就任（指定居宅介護支援事業所ハレノヒ管理者兼務）

※今後もデイサービスの窓口は井上・友田が担当致します。

9 次回会議資料配付予定

日付：令和5年11月20日～25日

※夕食の提供、利用時間延長の方の対応を行っているため今後も書面上での会議開催にてご了承いただけると幸いです。ご質問等ある際はいつでもご連絡下さい。

引き続き、皆様のご指導、ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

・運営会議資料ありがとうございます。

毎回、ヒヤリハットを拝見しています。

ヒヤリハットをゼロにすることはできないと思われます。

かと言って利用者の方の行動制限（言葉による抑制）などもできないと思われます。

注意深く観察し利用者の方の性質を見極め対応をお願いします。

あおいろ拝見しました。色々勉強になる事をいつも見やすくまとめてあると思います。私も少し目が悪くなってきていますのでわかるのですが、もう少し字が大きいと助かります。

・毎回、とても分かりやすくイラストも入っており知識が無くても説明が丁寧で面白い。

ケアのポイント 理解する事からと書いてあり家族だとなかなか理解しづらい事もあり相談できる事がとても重要で沢山の方にあおいろ情報誌がくばられればと思います。

脳トレとても良いと思います。1ページくらい使ってもいいと思います。

・毎日の業務お疲れ様です。日々の少しずつのヒヤリハットを記録されている事がアクシデントの減少、重大アクシデントの予防につながっている事と思慮されます。継続していくことが信頼の積み重ねになる事と思いますので引き続きご継続を頂けますと幸いです。

・日頃から利用者の状態や家族の状況に応じて対応して頂き、ケアマネとしてとても助かっています。また、外出企画や手芸・農作業等の様々な取り組みも活動の幅が広がり個人にあった内容を提供してもらえ事で、より多くの刺激や張り合いに繋がっていると思います。ケアマネやご家族からの要望も多いかと思いますが今後も自宅で望む生活を送る利用者・家族の支えとして多くの方と関わって頂けるとありがたいです。

・ヒヤリハット、対応策にアクシデントに対する改善策には頭が下がります。家族ではそこまでなかなかできない事です。

デイサービスを利用できることで接する時間が減る事で気持ちがお互い落ち着く部分もあると思います。

・構成員の私も高齢者ですので介護、認知症とか自分もいつ世話になるのかと考えます。で、A0IROの「認知症を学ぶ」いい情報の提供だと思います。利用状況では事業所の定員が決まっていますのでどうにもなりません利用追加希望者がすぐにでも通所できるようになれば本人も家族の方も安心されるだろうなと思います。ヒヤリハット及びアクシデントは大変ですね四六時中気を張っておられるのは大変だと思いますができるだけ利用者を安心させてあげるように頑張ってください。